

P10-174

乳癌術前合同説明会の経験

さいたま赤十字病院 2-3病棟¹⁾、
さいたま赤十字病院 2-2病棟²⁾、
さいたま赤十字病院 乳腺外科³⁾
○高瀬 民¹⁾、大橋 郁織²⁾、大塚 麻由²⁾、
野澤 亜矢²⁾、安木 薫¹⁾、薮 美香¹⁾、
秋山 朱美¹⁾、滝川 雅子¹⁾、奥出 絵里香¹⁾、
王 宏生³⁾、有澤 文夫³⁾、齊藤 毅³⁾

当院では平成20年4月から、乳癌術前患者に対して、病棟看護師が主体となって術前合同説明会を行っている。ここでいう合同とは、これまで担当医から患者に行う説明と、病棟看護師から患者に行う説明を、幾人かの術前患者を集めて、同時に行うことを意味しており、その目的は説明時間の短縮、労力の軽減である。会を開始した当初は、乳腺外科医師の術前説明の負担が減少したとの評価を得たが、一方では病棟看護師は病棟業務との折り合いをつけながら会の準備を行わなければならない、個別に説明を行っていたときよりも却って負担が増加してしまった。その後、病棟看護師による乳腺チームを編成し、説明看護師を数名に固定し、説明内容の統一を図り、また、患者からの質問事項を記録し、予め説明内容に盛り込むなどの工夫を行った。回を重ねる度に、会の運営手順は定型化され、医師、病棟看護師ともに術前説明の負担は軽減した。この会は労力を省く目的で始めたものであり、この目的は果たされたが、一方では、患者アンケートの結果から、会が患者の不安軽減、入院生活の把握、治療への理解に役に立っているとの手応えを感じている。さらに病棟看護師が自発的に乳腺疾患の学習会を行う意欲が向上したことは予定外の副産物である。この2年半を振り返り、今後の会のあり方、当院の乳腺疾患チーム診療の展望について報告する。

P10-176

赤十字東部ブロック施設における皮膚・排泄ケア認定看護師の人材育成

武蔵野赤十字病院 看護部¹⁾、日本赤十字社医療センター²⁾
○比留間 真子¹⁾、佐々木 貴代²⁾

【はじめに】赤十字東部ブロック20施設において、平成16年では皮膚・排泄ケア認定看護師は4人であったが現在、25名となった。経緯として、赤十字東部ブロック看護部長会の支援を受けて皮膚・排泄ケア認定看護師会が発足し、看護職に対する学習会が開催されたことが、認定看護師数増加、看護の質向上につながった一因と思われるため報告する。

【経過】平成14年度に褥瘡対策未実施減算が定められた。これをきっかけに、平成16年度から赤十字東部ブロック看護部長会主催により、皮膚・排泄ケア認定看護師会が発足した。当初4名の皮膚・排泄ケア認定看護師は、東部ブロック内における皮膚・排泄ケア領域の質向上を目的に、看護実践に還元できる知識・技術の習得を目標とした学習会を年間2回程度、定期的に開催した。

【結果・考察】平成16年以降に皮膚・排泄ケア認定看護師となった21名において、学習会参加が認定看護師資格取得への動機付けにつながったと考えられる。施設間を越えて学習会開催を主にした認定看護師活動が実現した背景には、東部ブロック看護部長会のサポートが大きい。施設を越えてブロック内の認定看護師同士の交流は難しい。また中堅看護職のキャリア形成に他施設の認定看護師が関わるのも困難である。しかし、同じ問題意識を持った者が一同に会して学ぶこと、役割モデルとなる認定看護師と交流することにより、キャリア形成に対する動機を生み、皮膚・排泄ケア認定看護師の育成に至ったものと思われた。

【今後の課題】この会を自主活動として継続し相互連携を図り、認定看護師の知識・技術の向上、専門性の追及を行っていきたい。また、今後増員が期待される認定分野へのサポートを看護部長会で継続的に行っていただければという希望する。

P10-175

地域医療へつなげるための栄養管理計画書の運用を目指して

武蔵野赤十字病院 看護部

○江藤 美佳、高橋 美樹、小野 翼、望月 つぐみ、
斎藤 恭子

【目的】近年、医療機関の専門化や機能分化が進み、在院日数が大幅に短縮している。そのため、栄養管理が一つの施設では完結しないことが多い。そのため、地域連携による継続した管理が必要となっている。しかし、当院では退院時の栄養評価や転院、退院後に継続した栄養管理が必要な場合の情報伝達方法が未だ確立されていない。そこで、当院で退院時の栄養管理計画書の運用状況から今後の課題を見出したので報告する。

【方法】退院、転院の患者が多い7病棟において2009年9月～10月の退院時に栄養管理計画書の評価を行っているか調査した。その結果、改善策を検討、試行し、11月～12月に同病棟において再度調査した。

【結果】栄養管理計画書の退院時評価の実施率は14%であった。第三者や退院・転院時チェックリストなどの改善策の施行後の実施率は64%と改善が見られた。しかし、一部の病棟では約1ヶ月後には実施率が低下していた。

【考察及び結論】改善策の提示は退院時評価を行うことを知らなかったスタッフに周知を図るきっかけとなり、退院時評価の実施率を上げる一助となった。しかし、実施の徹底や継続には至らなかった。「患者を生活の場に帰す」という視点で考えると食事摂取を含めた栄養管理のウェイトは大きい。そのため、退院時評価は転院先や退院後にも栄養管理を継続していくためには重要である。徹底されなければ、転院先や在宅療養における必要な情報伝達が不十分となり、栄養管理の継続は困難となる。患者の入院生活を支える看護師が栄養管理を継続することの重要性を認識できるように教育を徹底していくこと、そして栄養管理を地域でも継続されるためのネットワーク作りが今後の課題であると考えた。

P10-177

東部ブロック各施設における統一した褥瘡対策マニュアル活用に向けた試み

赤十字医療施設東部ブロック皮膚・排泄ケア認定看護師会¹⁾、
前橋赤十字病院²⁾、さいたま赤十字病院³⁾、
赤十字医療施設東部ブロック看護部長会⁴⁾、
足利赤十字病院⁵⁾、葛飾赤十字産院⁶⁾、芳賀赤十字病院⁷⁾
○清水 國代^{1,2)}、木村 公子^{1,2)}、藤屋 聡子^{1,3)}、
加藤 君江^{4,5)}、舛森 とも子^{4,6)}、久保 智子^{4,7)}

赤十字医療施設東部ブロック皮膚・排泄ケア認定看護師会では、平成16年よWOC（創傷・オストミー・失禁）看護領域の質の向上を図るため、WOC看護学習会を開催してきた。その集大成として東部ブロック施設内で統一した褥瘡対策が実施できることを目的に、平成20年4月に東部ブロック褥瘡対策指針・マニュアル（以下東部ブロックマニュアルと略す）を作成・配布した。今回東部ブロックマニュアルの活用状況を把握し、皮膚・排泄ケア認定看護師会の活動評価を行ったのでここに報告する。